

# 障がいの分野

長野県自立支援協議会 会長  
社会福祉法人高水福祉会 理事長  
丸山 哲

# 80 - 50 問題における課題

80歳を超える高齢の親と引きこもり状態の50歳を迎える親子関係の家族が、今後どうやって暮らし続けるか？が問題となっています。

この問題とは、

- 地域で暮らし続けることがいつまでできるか？
  - 普通の生活は成り立っているのか？
  - なぜ、引きこもり状況になっているのか？
  - 社会はこの家族をどう介入し、支えたらよいのか？
- 様々な課題を露呈しています。

## 課題の1つ【引きこもりの原因は？】

- 各家庭にそれぞれ個別の様々な問題があるけど、引きこもっている方が、何らかの障がいがあるのではないかな？
- その障害も一見わからないような発達障害の恐れがあることも気づいている。
- 関わりを持とうとすると、強い拒否があったり、関わり方が非常に難しいというケースが多く、手厚い支援を継続的にしなければ解決に至らない。長期間放置されている。

**障がい特性の困難性が生じている可能性が高い**

# 支援が困難な場合は？ = 相談支援専門員がすること

- 理解を深め共有する。⇒ **共感**
- 見通しを持った計画的支援 ⇒ 共感 ⇒ **チーム作りとケアマネジメント**  
(居住支援・生活(就労)支援)
- 多職種連携 ⇒ **行政を柱とする支援チーム**
- 長期継続的支援 ⇒ **地域の力を活用** (家族、近所、民生児童委員、区長、他インフォーマル支援)
- 住みやすい地域作り ⇒ **インフォーマルサービスと社会資源**を作る



**地域自立支援協議会を土台に皆が繋がりに地域づくりを営む**

# 市町村の(自立支援)協議会について

参考資料3

○ 障害者自立支援法等の一部改正により、平成24年4月から法定化された(自立支援)協議会は、地域の関係者が集まり、個別の相談支援の事例を通じて明らかになった地域の課題を共有し、その課題を踏まえて、地域のサービス基盤の整備を着実に進めていく役割を担っている。

○ 具体的には、

- ・ 委託障害者相談支援事業や基幹相談支援センターの事業実績に関する検証や評価
- ・ 相談支援事業者等からなる相談支援に関する専門部会等における、個別事例の支援のあり方についての協議
- ・ 指定特定相談支援事業者が作成するサービス等利用計画等の質の向上を図るための体制の検討
- ・ 地域移行支援・定着支援を効果的に実施するための相談支援事業者、精神科病院、入所施設、保健所や地域の障害福祉サービス事業所等による地域移行のネットワークの強化や、障害福祉サービスの利用の組み合わせによる施設入所者の状況を踏まえた地域の社会資源の開発の役割強化

等の取組を地域の実情に応じて進めていく必要がある旨や、地域における障害者虐待防止等のためのネットワークの強化を図る必要がある旨が、通知により明確化されている。

※ (自立支援)協議会において、個別事例に係る協議を行う場合には、個人情報保護の取扱いに留意することとなっている。

## 【(自立支援)協議会を構成する関係者】



# 困難な支援 引きこもってきた人の支援

(例) 親なきあと、一人で生活する状況になった方の場合、GHや、施設での生活が考えられる。就労など生活支援も必要かもしれない。

## こんな支援プランをご提案すると

- ・ GHでの生活になじむ人、なじまない人がいる  
なじまない人⇒※問題行動が生じGH利用NG⇒病院又は入所施設
- ・ 生活が自立できていない⇒就労支援・生活支援事業利用  
⇒なじまない人⇒厄介者として社会に放り出される。

**福祉サービスに繋げるだけの  
コーディネートでは支えられない**

※本人としては今までの生活をしているだけの状況を、周りの人が周りとの違いに困惑し問題と認定している

# そんな方々を地域で支える仕組み

サービスを使うことが難しい人や

病院・入所施設に追いやられた人に対し

- 地域福祉コーディネーターや※主任相談支援専門員が地域のインフォーマルサービスを駆使しながら、関わり生活を作り上げる。
- 支援の専門性だけにこだわると支援できない人が、たくさんできてしまう。
- かといって専門性を無視すると、質の良い支援ができずに、当事者も支援者も苦しんでしまう。

※主任相談支援専門員：令和2年から長野県でも研修制度が整備され、県内でも40人ほどの主任相談支援専門員が誰もが地域で暮らし続けられるような地域づくりを実践している。

# 地域づくりを進めるコーディネーターの使命

## 地域で支えるとは？

その人がその人らしく生きてゆくためには、家を基点としてその人の生活を応援すること。ご本人主体が大原則。

「今までどんな生活をしてきたんだろう？」 「地域ではどんな役割を果たしていたんだろう？」

## コーディネーターの使命

その人の事情で使えるサービスがなくても、あきらめずに支援をしなければならない。何らかのサービスにつなげたとしても、その事業所が全て責任を負うものでもない。無用な事故や事件に発展しないためにも、地域全体で支える仕組みが無ければ、地域は住みやすくない。

例えば、社会資源が乏しかったり、連携ができていなければ、地域の中につながるための拠点をこしらえチームで地域づくりをしていく方法もある。⇒ **拠点づくり**

地域にある社会資源、専門性、コーディネート力、行政責任を上手にコーディネートすることで、地域は良くなる。⇒ **仲間とともに地域づくり**